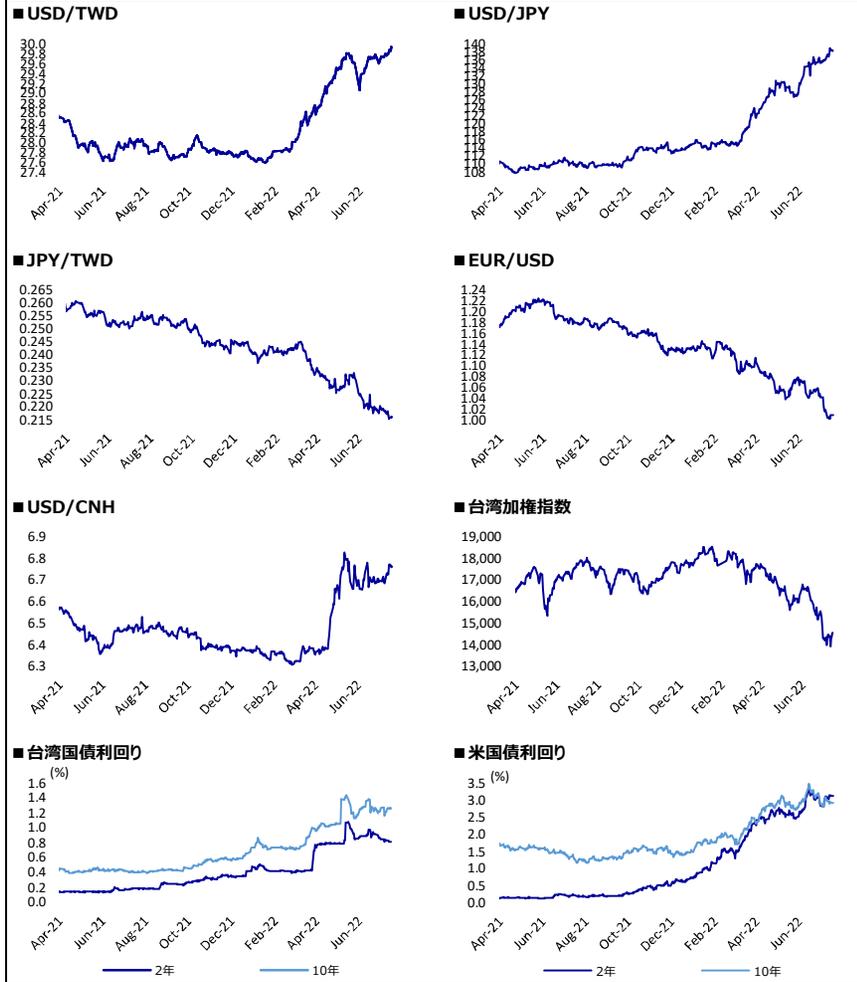


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/11は29.810でオープン後、軟調な台湾株につられて29.82付近で推移。輸出企業のドル売りが強まると一時29.788まで下落したが、結局29.82付近に戻された。7/12は景気後退懸念から台湾株が急落。ドル台湾ドルは上昇し、一時29.9台に乗せた。7/13は国家金融安定基金が株式市場への介入を決定との報道を受け台湾株が反発し、台湾ドル買いが優勢に。じりじりと下落し、29.85付近まで戻した。7/14は前日の米CPIが市場予想以上に上昇したことから、ドル全面高となる中、29.89付近まで上昇したが、29.9台には乗せなかった。7/15は外国人投資家の海外への送金が拡大したことから29.94付近まで上昇。輸出企業のドル売りが上値を押さえていたものの、午後には一時29.965まで上昇。最終的に先週比0.6%ドル高台湾ドル安の29.946で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は170.2億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇し、約24年ぶりの高値を更新。週初7/11は136.00でオープン後、前週末の米雇用統計で雇用の堅調さが確認され、また前日の参議院選挙を受けて政権安定化への期待感からリスクオンとなり、ドル円は137円台前半まで上昇。米長期金利が低下するものの、ドル買いが強まり137.75をつけ、直近高値を更新。7/12はリスクオフモードが高まり、円が買われじりじり下落すると136円台前半まで下落。7/13は米6月CPIの発表を前に137円ちょうどを挟んでもみ合っていたが、CPIが発表されると市場予想より上昇したことからドルが買われ137円台後半に。またカナダ中銀が予想外に1.00%の利上げを決定したこともあり、円が売られ、7/11につけた高値を更新した。7/14は米6月CPIを受け、7月のFOMCの利上げ幅を1.00%と見込む動きが強まり、じりじりと上昇。138円台に乗せた後も上昇を続け、139円台に入り、一時139.38と約24年ぶりの水準に。買いが一巡すると上値は重く139円ちょうど付近で推移。7/15は6月FOMCで注目されたミシガン大消費者信頼感が発表されると、期待インフレ率が前月より低下していたことから、7月のFOMCでの1.00%の利上げ期待が後退し、ドル円はじりじり低下し、一時138円台前半まで下落。最終的に先週比1.8%ドル高円安の138.56で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：29.650-29.950  
先週は7月FOMCでの1.00%の利上げ期待が高まった。期待インフレ率の低下により、1.00%の利上げ期待は後退しているものの、来週にFOMCを控える中、上値を探る展開が続くであろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：136.00-140.00  
先週は米経済指標を受けた荒い値動きとなったが、今週は日銀の金融政策決定会合を控えている。特段の変更はないと見られており、影響は限定的と見込む。ドル円は直近高値を更新し続けており、利益確定の動きや、景気後退懸念の高まりからのリスクオフモードでの円買いに気を付けたい。

今週の予定

7/18 (MON)	日本休場
7/19 (TUE)	米6月住宅着工/許可件数
7/20 (WED)	台湾6月輸出受注、米6月中古住宅販売件数
7/21 (THU)	日銀金融政策決定会合、ECB理事会
7/22 (FRI)	日本6月CPI、台湾6月失業率

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。